

Abstract

HIVに感染した血友病男性患者群におけるHIV/AIDSの知識と情動的適応：最終報告

Knowledge of HIV/AIDS and emotional adjustment in a cohort of men with haemophilia and HIV infection: final report

E. Pasqualmarsettin, N. Ciavarella, C. Lobaccaro, A. Ghirardini, M. Puopolo, D. Cultraro, et al.

この検討はHIVに感染した血友病男性患者の長期にわたる心理学的評価に関する最終報告である。HIV感染に関する知識、情動的衝撃、時間経過に伴うプロスペクティブな変化、および心理学的サポートの必要性について評価された。試験群はパリ、フィレンツェ、ミラノおよびナポリの血友病センターの男性血友病患者118人からなり、HIV血清陽性は66人、陰性は52人であった。被験者全員に、心理テスト（STAI：不安の状態および特性項目表；SDS：抑うつ評点尺度）が実施され、またAIDSの知識および情動的影響を確認するため質問表への記入も行われた。登録後（1992–93年）、評価は2年間に2回繰り返された。両群とも知識に関する質問の正解率は高く、特に性行為がHIV感染に対する危険因子であり、HIVに感染した血友病患者の性的パートナーは定期的に検査を受けるべきであるとの項目では全員（100%）が正しい知識をもっていた。しかし、陽性患者で性行為の際は必ずコンドームを使用すると答えた率（86%）およびパートナーが定期的にHIV検査を受けていると明言した率（60%）は低下した。

今回の検討の最も重要な特徴は、予想に反し、陽性患者も陰性患者も同程度の情動的影響を示したことである：不安および抑うつ尺度のいずれの平均値にも群の間に統計学的有意差は認められなかった。さらに、ある面では、陰性群の方がより大きな情動的影響を示した：ベースラインの評価で、陽性患者より多くの陰性患者が恐れおよび不幸な感情を抱い

ていた。また、より多くの陰性患者がAIDSについて学んだ後、注入を嫌悪したり血液製剤を拒否するようになった。この結果から、陰性患者の情動状態にも注意を払うことの重要性が強まった。血液製剤の使用に対する嫌悪感（安全性を示されても）は、治療しても臨床状態を悪化させる危険性を伴う可能性があるため非常に重要な問題である。従って、血友病患者に対してはHIV状態に関係なく、HIV感染/AIDSに関するカウンセリングが必要であると考えられる。

Table 1. Demographic and clinical characteristics of subjects (n (%))

	Total (n = 118)	HIV+ (n = 66)	HIV- (n = 52)
Haemophilia A	96 (81)	49 (74)	47 (90)
Haemophilia B	17 (14)	14 (22)	3 (6)
Von Willebrand	5 (5)	3 (4)	2 (4)
Mean age (years)		30.6	32.6
Married	48 (41)	26 (39)	22 (42)
Single	70 (59)	40 (61)	30 (58)
Students	17 (14)	9 (14)	8 (15)
Employed	72 (61)	41 (62)	31 (60)
Unemployed	29 (26)	16 (24)	13 (25)
CDC stage			
II–III		46 (70)	n.a.
IV		20 (30)	n.a.
CD4 lymphocyte levels			
> 500		6 (9)	n.a.
500–200		32 (49)	n.a.
< 200		28 (42)	n.a.

n.a. = not applicable.

Table 2. Comparison of state-trait anxiety inventory (STAI-Y₁,Y₂) and Zung self-rating depression scale (SDS) average scores (SD) at different times by HIV serostatus

	HIV+			HIV-	P Value HIV + IV vs. HIV II/III	P Value HIV + IV vs. HIV-
	CDC II/III	CDC IV	All			
STAI-Y ₁						
T0	36.9 (10.4)	39.1 (13.3)	37.7 (11.3)	36.9 (8.1)		
T1	34.4 (11.3)	44.57 (13.6)	37.37 (12.7)	36.05 (9.6)	(0.1)	(0.1)
T2	37.2 (13.6)	47.05 (13.07)	40.49 (14.5)	38.44 (11.8)	(0.2)	(0.2)
STAI-Y ₂						
T0	35.7 (9.2)	39.3 (13.06)	36.8 (10.5)	38.7 (10.1)		
T1	35.88 (13.5)	41.71 (14.3)	37.55 (13.8)	37.02 (10.1)		
T2	36.1 (11.7)	43.6 (10.6)	39.02 (11.6)	38.14 (11.2)	(0.2)	
SDS						
T0	30.6 (7)	33.9 (10)	31.5 (8.1)	34.9 (8)		
T1	29.6 (8.2)	35.07 (9.5)	31.16 (8.8)	32.27 (8.4)		
T2	31.5 (9.7)	36.2 (9.9)	33.16 (9.9)	32.84 (9.5)		

Table 3. Questionnaire on the psychological impact of AIDS: percentage of subjects answering positively to each question

	HIV+			HIV-
	CDC II/III	CDC IV	All	
T0				
Reluctance towards infusion	52	42 (0.01)*	49 (0.03)	73
Avoidance of blood products	34	21 (0.05)	30 (0.04)	50
T1				
Reluctance towards infusion	51	31	45	49
Avoidance of blood products	37	19	31	38
T2				
Reluctance towards infusion	53	56	53	62
Avoidance of blood products	31	17	25	45

*P (vs. HIV-).